

真剣味



中京大学 | 広報 178号

2014年1月31日発行

主な内容

- ②-③ 竹炭で放射性物質を吸着・除去
- ④-⑤ 就職内定者の体験記／主な内定先
- ⑥ 岐阜薬科大学と協力連携協定
- ⑦ 教員採用試験の結果／2014年度学年暦
- ⑧ 中京人往来「天女の羽衣・天池源受さん」
- ⑨ 景気シンポジウム「2014年の経済見通し」
- ⑩-⑪ 推薦入試結果／2014年度学費
- ⑫-⑬ ソチオリンピックに本学関係7選手が出場
- ⑭-⑮ 学習・研究成果を社会に向け発信
- ⑯-⑰ セミにフォーカス「他大学と交流」
- ⑱-⑲ 7つの研究力「社会科学研究所」



中京に歴史あり 1974年◀◀

豊田キャンパスが完成し、体育学部が八事から移転して4年目。3月に竣工した事務・図書館の本部棟(1号館)前広場で、入学式を待つ体育学部の新入生と保護者たち。この年、私学では全国2番目となる大学院体育学研究科修士課程が開設され、更なる一步を踏み出した。

発行 中京大学 広報部

〒466-8666 名古屋市長和区八事本町101-2
TEL.052-835-7111(代)

竹炭で放射性物質を吸着・除去

野浪教授らのチームが実証



記者会見で実験結果を説明する野浪教授(中央)

え、セシウムなどを吸着した汚染土壌もそのままの状態では放置されており、保管スペースが膨大になる。これに対して、竹炭を塗り込んだ袋に汚染土を詰めて場所を移動させた後に竹炭を燃やせば、吸着した放射性物質だけを濃縮して取り出せるメリットがある。

竹炭は燃やして炭になると、表面に無数の小さな穴が開いて、表面積が大きくなる。研究

竹炭について、ヨウ素とセシウムの吸着能力を比較する形で行った。その結果、竹炭はゼオライトの5倍以上のヨウ素を吸着した。一方、セシウムに関してはゼオライトの74%の吸着能力を持っていることが分かった。

野浪教授らによると、福島第一原発内にある汚染水のセシウム濃度を約1200ベクレル／リットルとすると、25メートルプール一杯分の汚染水(約36万リットル)中のセシウムを竹炭約10キロで吸着できる計算になるという。

近年、竹炭は手入れされずに放置されて問題となっており、研究チームでは「放射性物質の除去に竹炭を活用することで、一石二鳥の効果が期待できる」と話している。

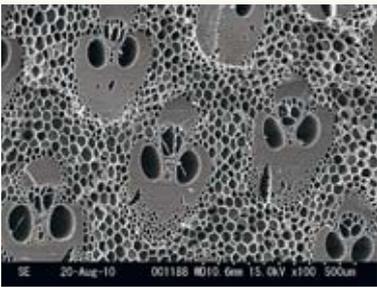
本学人工知能高等研究所の野浪亨研究員(工学部教授)らの研究プロジェクトチームが、竹炭がヨウ素やセシウムを吸着する優れた特性を持っていることを証明する実験に成功した。

福島第一原発事故では、放射性物質による汚染水や土壌の除去が急務になっているが、現在は輸送や製造コストが高い

チームではこの特徴を生かして、2012年3月以降、放射性物質の吸着材としての竹炭の研究を重ねてきた。

実験に用いたのは、酸素を入れる量や時間を工夫して最高温度660度で6時間かけて焼いた竹炭。濃度26ppmのセシウムを溶かした実験用の水溶液を用いて、ゼオライトと粉にした

竹炭断面図(電子顕微鏡写真)



竹炭断面図(電子顕微鏡写真)

「竹炭プロジェクト」全体の流れ (イメージ図)



豊田キャンパス内に「竹炭窯」を設置

竹炭を粉末・ペースト状にして塗り込んだ不織布に汚染土を入れておけば、セシウムが吸着されて雨などで外に染み出す危

険性が低減するほか、ベビーカーに不織布のカバーをかければ、乳幼児の被ばくも防止できる。このため、研究チームでは豊田

キャンパス内に実際に「竹炭窯」を設置し、より吸着特性

授業環境の向上図り、よりよい大学へ

学生の立場から、授業環境の向上を図り、よりよい大学を目指して活動をしている学生FDスタッフ組織「SearCH(サーチ)」が、2013年11月から、他大学との交流会や教室の清掃など、試験的な取り組みをスタートした。



課題を検討するFDスタッフの学生たち

SearCHのメンバーは現在28人。5月から学生関係、教職員関係、広報の3グループに分かれて、「他の人の私語により、授業に集中できない」「皆が使う机に落書きする行為は迷惑」などの現状の問題点を挙げ、解決策や手法を検討してきた。

活動内容

クリーンアップ作戦、しゃべり場 「多くの学生に理解と協力を」



机上の落書きを消す学生

SearCHは12月10日、落書きをする学生を減らす取り組みとして「クリーンアップ作戦」を名古屋キャンパス5号館で実施した。各教室に残っている学生にも協力を求め、消しゴムを使って机の落書きを消していった。参加した伊神拓さん(経済学部2年)は「意義を理解してもらうまでには至らなかった。中京大学に愛着を持ち、施設を

綺麗に使用するマナーを多くの学生に伝えていきたい」と話す。

11月20日には、愛知学泉大学の学生FDスタッフと「よりよい授業づくり」をテーマに意見交換会を実施。学生が主体となって授業アンケートを実施することで、率直な意見を集めることができるなどアイデアを出し合った。その他、授業について喋ろうという企画「しゃべり場」、本学の掃除を請け負っている会社に「どのように教育環境を保っているか」についてインタビューなどを実施した。

学生FDスタッフ代表の水谷知博さん(法学部2年)は……

学生FDスタッフの活動が、まだ学生全体に浸透していないように感じました。今年は、より多くの学生に知ってもらい、参加してもらえるように、様々な活動に取り組みたいです。

メンバーの熱意高く
世話役：
銭 佑錫・経営学部教授

「中京大学をいい大学にしたい」というメンバーの熱意が、ミーティングを繰り返すごとに高まっている。昨年度は体制づくり、今年度は本格的な活動をするための基盤整備、来年度からが本格的な実行で、現在、第2ステージの中盤に差し掛かっている。早急の成果を求めず、後輩たちのためにも、じっくり取り組んでほしい。



今回の研究は、人工知能高等研究所と社会科学研究所・体育研究所による共同プロジェクト。人工知能高等研究所の長

谷川純一所

長(工学部

教授)は「人

工知能研は

竹炭の吸着性能の科学的検証、

社会科学研は竹材の流通、利用

法、事業化などの検討、体育研は

医学生理学的な立場から竹炭利

用時の人体への影響などの検討、

3 研究所の共同プロジェクト

人工知能高等研究所 / 社会科学研究所 / 体育研究所

と役割を分担している。最終的には行政も含めた地域共同プロジェクトとして推進したい」と語る。

域事業やボランティア活動も豊田市で展開されている。しかし、いずれも小規模にとどまっています。竹林の拡大や竹炭化の進行をとどめるまでには至っていない。

今回の研究結果を受け

また、社会科学研究所の友昌子研究員(現代社会学部教授)は「豊田キャンパス周辺にも竹林があり、里山環境保全とも竹林の保全に立ちあがった地

て、資源化に向けた竹林のさらなる実用化が期待されるとともに、竹林を管理するための市民を含めた活動の展開が望まれる」と話している。



専用窯で竹炭を製作する大友教授(左から2人目)、長谷川教授(左から3人目)、野浪教授(右端)

に優れた竹炭の製法などを検討する一方で、企業と連携して汚染土を詰める不織布などの製品開発も進めている。

野浪教授らは「製品化のめどが立てば、福島県など被災地とも連携して放射性物質の除去に貢献していきたい」と話す。

「ものづくりに懸けるプライド」

愛知県のものづくり産業を支える優良企業の社長を講師に招き、学生たちに、ものづくりに懸ける企業のプライドなどを語ってもらう講座が11月25-29日に名古屋キャンパスで開かれた。本学と愛知県、愛知県中小企業団体中央会の共催で、本学の学生のほか、他大学の学生も広く募集。計200人の学生が熱心に聞き入った。

講座は全5回で、「ものづくりは人づくり〜共に育つ人材育成〜」(エイベックス)、「難しい袋詰め包装にチャレンジする」(ゼネラルパッカー)、「若い人に伝えたい食品の安全」(七福醸造)、「私たちにしか出来ないモノづくり」(河合電器製作所)、「あるモノづくり企業の事業戦略」(協和工業)。キャリアセンターは「企業トップの熱い思いが学生を刺激してくれる。企業選びの考え方が変わるのでは」と期待している。

企業選びの条件 採用の本気度見る

総合政策学部 金子 純也
(刈谷北高校)



内定先 ▶ (株)ミルボン

美容室向けヘア化粧品メーカー 東証上場

企業に選ばれるのではなく、自分が企業を選ぶということを大切に就職活動に取り組みました。

企業を選ぶ際、「採用活動に対する本気度」を基準としていました。企業側は採用活動に何百万円もお金を費やし、入社後も教育のために高いコストをかけていることを大学のゼミ活動で学びました。そう考えれば、投資に応えられる可能性の高い学生に来てもらうために尽力するはずだと考えていました。

(株)ミルボンは、「採用活動に対する本気度」を強く感じました。特に、選考過程での2日間にわたるインターンシップでは単なる選考に終わるのではなく、提示された課題に対する解決策や時間管理、プレゼンテーションの完成度について社会人レベルでの指摘をいただきました。この高い要求は、企業側が採用活動に妥協していないが故であると感じました。

私自身も志望する企業を深く理解し意欲を認めてもらうため、必死に取り組んできました。例えば、ある食品卸売業社の説明会で他業界の卸売業社と業務提携を結び、業種を超えた販促提案や流通体制の構築に取り組んでいることを伺いました。その取り組みに対して、同業他社の差別化について質問することや自分であればどんな販促提案をするかについて考えるために、売り場に足を運ぶこともありました。このような行動から、私自身も本気度をアピールしてきました。

製造業 日本ハム、カゴメ、山崎製パン、フジパングループ本社、井村屋グループ、コカ・コーラセントラルジャパン、ブルボン、テーブルマーク、武田薬品工業、田辺三菱製薬、大正製薬、協和発酵キリン、科研製薬、大日本住友製薬、旭化成ファーマ、興和、サンスター、ジョンソン・エンド・ジョンソン、ノバルティスファーマ、日本ベーリンガーインゲルハイム、日本新薬、三和化学研究所、ミルボン、ホーユー、日本メナード化粧品、春日井製薬、タカラスタンダード、トヨーキッチンアンドリビング、トヨタ自動車、本田技研工業、スズキ、ダイハツ工業、アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン精機、豊田合成、デンソー、ジヤトコ、トヨタ車体、愛三工業、林テレンプ、三五、小島プレス工業、東海理化電機製作所、三ツ星ベルト、ビューテック、極東開発工業、LIXIL、三協立山アルミ、YKKAP、リンナイ、パロマ、日本特殊陶業、ヤマザキマザック、DMG森精機、オークマ、シーケーディ、オーエスジー、新東工業、リコーエレメックス、スギノマシン、イビデン、住友電装、パナソニックエコシステムズ、オリバー、ミキハウス、デサント、ゴールドウイン、アイホン、ニプロ、メニコン、豊通マシナリー、河合楽器製作所、フクビ化学工業、イノアックコーポレーション、三甲

金融・保険業 三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、三井住友信託銀行、りそな銀行、十六銀行、大垣共立銀行、名古屋銀行、愛知銀行、中京銀行、百五銀行、三重銀行、スルガ銀行、静岡銀行、清水銀行、北國銀行、北陸銀行、八十二銀行、百十四銀行、福井銀行、岡崎信金、碧海信金、瀬戸信金、岐阜信金、浜松信金、桑名信金、オリエントコーポレーション、三菱UFJニコス、セディナ、クレディセゾン、トヨタファイナンス、東海労金、愛知県信用保証協会、野村證券、大和証券グループ本社、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SMBCフレンド証券、SMBC日興証券、日本生命保険、第一生命保険、明治安田生命保険、住友生命保険、東京海上日動火災保険、三井住友海上火災保険、あいおいニッセイ同和損害保険、損害保険ジャパン

建設業 積水ハウス、大和ハウス工業、住友林業、三井ホーム、旭化成ホームズ、トーエネック、シーキューブ

不動産業 三井不動産リアルティ、住友不動産販売、積和不動産中部

卸売・小売業 ニトリホールディングス、キャノンマーケティングジャパン、ユアサ商事、アフレッサ、スズケン、ブラザー販売、Paltac、大塚商会、都築電気、岡谷鋼機、伯東、日伝、三谷商事、オムロンオートモーティブエレクトロニクス、キャノンシステムアンドサポート、タキヒヨー、リコージャパン、花王カスタマーマーケティング、トーカー、東海濃粉、三菱商事テクノス、三菱商事マシナリ、八神製作所、メディセオ、中央工機、日本出版販売、イオンリテール、ユニー、サークルKサンクス、アルペン

運輸・通信業 東日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道、近畿日本鉄道、名古屋鉄道、日本貨物鉄道、日本航空、中日本航空、大韓航空、スカイネットアジア航空、ドリームスカイ名古屋、JALスカイ、日本梱包運輸倉庫、名港海運、伊勢湾海運、近鉄エクスプレス、住友倉庫、三井倉庫、東陽倉庫、日本トランスシティ、郵船ロジスティクス、ジャルエクスプレス、住商グローバルロジスティクス、日本通運、西濃運輸、ヤマト運輸、豊通物流、近畿日本ツーリスト、JTB中部、エイチ・アイ・エス、日本旅行、ジェイアール東海ツアーズ、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、トヨタデジタルクルーズ

電気・ガス 東邦ガス

サービス業 電通、博報堂、ヤフー、ソフトバンク、サイバーエージェント、マイナビ、ジェイアール東海ホテルズ、名古屋観光ホテル、名古屋ヒルトン、愛知冠婚葬祭互助会、NECフィールドディング、リコーテクノシステムズ、三菱電機システムサービス、インターネットイニシアティブ、TIS、インテック、オービックビジネスコンサルタント、NSD、日本コンピューター・システム、中電シーティーアイ、日本電子計算、日立情報制御ソリューションズ、NTTデータカスタマーサービス、トヨタコミュニケーションシステム、富士通システムズ・ウエスト、豊通シスコム、三菱電機ビジネスシステム、中部日本電気ソフトウェア、三菱電機メカトロニクスソフトウェア、エヌ・ティ・ティ・データ東海、エヌ・ティ・ティマーケティングアクト、シーテック、アイシン・エンジニアリング、日立システムズ、明治電機工業、三菱自動車エンジニアリング、トヨタパーソナルサポート、日本郵政グループ、愛知県国民健康保険団体連合会、名古屋市社会福祉協議会、ZIP-FM、テレビ朝日ミュージック、福井テレビジョン放送

公務員 国家公務員一般職、国税庁、裁判所職員一般職、愛知県庁、岐阜県庁、静岡県庁、福井県庁、長野県庁、東京都特別区、名古屋市役所、浜松市役所、愛知県警察本部、三重県警察本部、岐阜県警察本部、警視庁、名古屋市消防局、豊田市消防本部、岐阜市消防本部、東京消防庁、愛知県教育委員会、三重県教育委員会、岐阜県教育委員会、大阪府教育委員会、石川県教育委員会、名古屋市教育委員会

仕事に就くイメージ 内定後、一層高めよう

企業の2014年春の新卒大学生採用計画は、前年比10.7%増で3年連続の増加となった。

ただ、企業は人数確保を第一に考えるのではなく、人材の質を重視する厳選採用を続けており、計画人数に達していても、無理には採用しない。内定を出す基準を前年より厳しくした企業は11.1%で、緩くした企業の6.3%を大きく上回っている。

キャリアセンターは「内定が出て就活が終わっても、仕事に就くイメージを持ち続け、自己研鑽してほしい。4月から社会人として好スタートをきるために」と話す。納得した就活ができたという3人に、企業選びや自己PRなど、特に心掛けたことを綴ってもらった。

自分を見つめ直す 人生の転機に

体育学部 田村 悠
(富山第一高校)



内定先 ▶ 三谷商事(株)

情報システム、建設、エネルギー事業関連商社 東証上場

就職活動で最も聞かれる問いは「大学時代、あなたはどんなことに取り組んできましたか」。私はクラブ活動の事しか答えられませんでした。それしかアピールできることがなかったからです。面接で「スキーマーのモーグルで日本一になりました」と言うと、人事の方の目が変わるのを感じました。得意になって話し、就活は順調に進んでいると思っていました。

ある時、「あなたは社会に出てどんなことができると思いますか」という質問に、沈黙してしまいました。それを機に「クラブ活動の結果がなければ、何も評価されないんじゃないか」という不安を感じるようになりました。「もっと本質的な、ありのままの自分を評価してもらいたい」。最大のアピールポイントだったモーグルが、自分という人間を素直に表す邪魔をしていました。

本当の自分について悩み、考えに考えてたどり着いた答えは、あやふやなモノでした。人の役に立ちたい、そのためにどんどん働きたい、親孝行したい。就職活動で、自分が見えてきた気がします。同時に足りないところばかりだとも気づきました。

今は、新聞を読み、英語や資格の勉強をし、社会人になる準備をしています。キャリアセンターの学生アドバイザーとして経験を3年生に伝えています。「就職活動が終わったから一息じゃない、これから勝負だ」という思いで日々過ごしています。就活は、自分を見つめ直す、人生で大きな転機となりました。

失敗は努力の結果 成功以上に自分伝える

情報理工学部 原 大輔
(大門高校)



内定先 ▶ 株式会社富士通システムズ・ウエスト

富士通グループのシステムインテグレーター

私は面接や自己PRでは、成功した事よりも失敗した事や苦労した事を多く話すよう意識していました。

ゼミの活動で歌声楽曲検索システムを製作し、自信のある作品になりました。そして、情報処理学会で学生奨励賞を受賞する事ができました。しかし、いい経験があったとしても上手く伝える事ができなければ意味がありません。

私は昔から話す事が好きで、自慢も多くしていました。しかし高校を卒業し、自慢好きの性格は社会人として生きていくためには窮屈だと感じました。そこで自慢の回数を減らし嫌みの無い話し方に変えた結果、失敗談を話す事で、成功談以上に自分を伝える事ができると気がつきました。

面接では、「使用する技術が多かった」や「何百回も歌ってテストする事を想定していなかった」といった、努力したゆえに起こった開発現場のエピソードを話すように心がけました。すると、その失敗から得たものについて話す事ができたり、「どんな気持ちでテストをした？」など、成功談だけでは広げられない方向にも話を広げる事ができました。さらに、自分の悪い部分を話す事で気が楽になり、緊張せずに話す事ができました。

私は、体験してきた失敗を、「単なる事実」としてではなく“努力の結果”として話しました。成功して得る物も多いですが、その中にある失敗から得た物もたくさんあるはずですよ。

本学と愛知県等の共催講座

社長が語る



本学と岐阜薬科大学が協定締結

全国初 MBAと薬学博士の ダブルディグリー

本学と岐阜薬科大学は、全国初となるMBA（経営管理修士）と博士（薬学・薬科学）のダブルディグリー（複数学位取得）制度に関する協定を締結し、1月6日、本学名古屋キャンパスで調印式を行った。国際的な視野に立ち、医薬の研究と医薬業界の経営に実力を発揮できる人材の育成に向け、2014年度より連携・協力していく。

専門性高い分野にも ビジネス・マネジメント

調印式後、北川薫・本学学長は「ビジネス・マネジメントは、専門性の高い分野でも必要とされている。今回の連携・協力協

対象となる学生は、岐阜薬科大学大学院薬学研究科博士課程の在籍者。本学大学院ビジネス・イノベーション研究科修士課程にも入学し、両大学院の学生として学習・研究に取り組むことでダブルディグリーが可能となる。両大学院の入学試験に合格し、並行して両大学院の学習・研究を行うことになる。



調印式後、握手を交わす北川学長(左)と勝野学長

定をきっかけに、他の分野も含め、展開していきたい」と挨拶。勝野眞吾・岐阜薬科大学学長は「MBA取得を目指す社会人と本学の薬学のエキスパートをを目指す学生が交流できることは意義が大きい。異質の学生が交わる新しい大学院への取り組みをしていきたい」と抱負を述べた。

① 医薬品の開発・流通および医薬品産業の経営分野で活躍できる専門人材の育成② 日本の医薬品産業がグローバル展開するための道標の提示③ 薬学研究科の学生と社会人学生との協働・協学による新しい実践的学習モデルの提示、などの成果が期待される。

◆ ◆ ◆
ビジネス・イノベーション研究科は、企業経営を科学的アプローチによって捉える教育を実践している。経営学の理論を体系的に学び、実践的スキルを身につけ、更に広範な人脈を形成する機会を提供している。

「MBAコース」の他に、中小企業診断士一次試験合格者を対象とする二次試験免除の「中小企業診断士コース」も設置されている。

図書館の貴重書 9



嶋原記（嶋原軍物語）

（貴128）

島原の乱の戦記

本書は寛永十四年（一六三七）十月から翌年二月の島原の乱に取材する戦記。慶安二年（一六四九）版と、刊行年の記されていない挿絵入りの版が京で出された後、寛文十三年（一六七三）

に江戸の山本九左衛門という本屋が出版したのがこの版。大本三巻四冊。なお本学図書館は、京版二種のうち後者も所蔵する（貴37）。

寛文十三年版の本文巻頭題は「嶋原記」だが、表紙に付された題は「嶋原軍物語」。江戸版は、表紙の題を京版と異なるものにすることが多い。京版二種が一頁十行と十二行なのに対して、この版は十五行で頁数が少なく、本文は漢字を仮名に替えるなどしている。紙も漉き返しと呼ばれる再生紙で、京版より安価だったろう。

挿絵は全十六図で、京版とは異なる独自のもの。実はこの挿絵のうち七図の構図が、同じ江戸の鱗形屋から出版された『大坂物語』の挿絵に使われている。『大坂物語』は大坂冬の陣・夏の陣の戦記で、戦闘場面等を転用したのである。両者の権利関係がどうなっていたのか、今後の説明が待たれる。名古屋の貸本屋大野屋惣八と蔵書家平出鏗二郎の旧蔵書。

（文学部教授 柳沢昌紀）



2013年度 教員採用試験
全国35の府県や市で合格

現役49人、既卒171人

2013年度教員(公立学校)採用試験の現役・既卒の合格者は合計220人に上り、2009年度(177人)から最近5年間、毎年、着実に増えている。内訳は現役学生49人(昨年51人)、既卒が171人(同167人)。

学校別では小学校47人(同44人)、中学校81人(同97人)、高等学校56人(同49人)、特別支援学校33人(同26人)、中学校・高等学校3人(同2人)。

地域別内訳は愛知県が93人、名古屋市・三重県各21人、岐阜県18人、静岡県7人の順。東北から九州地方まで全国35の府県や市で採用試験合格者が出ている。

■教員採用試験合格者数

	2013年度		2012年度		2011年度	
	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒
小学校教諭	13	34	18	26	27	35
中学校教諭	21	60	24	73	24	45
高等学校教諭	14	42	9	40	10	31
中学校・高等学校教諭	1	2	0	2	0	3
特別支援学校教諭	0	33	0	26	3	24
合計	49	171	51	167	64	138
	220		218		202	

※合格者数は1月22日現在の数字で、都道府県市の各教育委員会および個人からの報告を基に教務課が集計。判明分のみ。補欠合格を含む。

生徒が主役
双方向型の授業を目指す

文学部 笹川 恵理
(高蔵寺高校)



就職先 ▶ 大阪府中学校(国語)

私が教員を目指したのは、教員の繋がりを大切に、生徒の成長にやりがいを持って働いている先生方に出会い、学校という場所で、私も生徒の成長を支えたいと思ったからです。

教員採用試験対策では面接に力を入れ、国語科・英語科・社会科の仲間と有志でも練習しました。初めは、声の大きさや表情の指摘が多かったのですが、徐々に教育方針や学級運営など、意見交換もしていきました。さらに、面接官役を通して「生徒全員が積極的に参加する授業を実践できるか」「アレルギー症状にどう対処するか」など、より現実的に考えました。

教育実習では「生徒が主役であること」を改めて考えました。初回授業で、指導の先生に「生徒の発言を授業に反映させること」「待つこと」を指摘されました。生徒に合った授業を行い、生徒が問題を咀嚼して自由に答えられるようにすることが大切だと考え直しました。このことが、生徒自身に考えさせ、教員と生徒の双方向型の授業にするために重要だと気づきました。

教員免許取得に必須の介護等体験では、体が弱く、満足に勉強できず、国語教員になれなかった方のお話が心に残りました。「当たり前」に学べる境遇に、改めて感謝しています。中学生は心身ともに成長し、不安定な時期ですが、これから受け持つ生徒にも「当たり前」に生き、学べるありがたさを伝えていきます。

2014年度 学年暦

祝日6回が平常授業

授業や集中講義、定期試験など2014年度の「学年暦」が決まった。春学期が4月7日、秋学期は9月19日に授業を開始する。

授業回数は春学期、秋学期それぞれ15回。授業日数を確保するため、6回の祝日(4月29日、7月21日、9月23日、10月13日、11月3日、11月24日)が授業日となる。また、異常気象により全学的に休講となる事例が発生していることへの対応策として、春学期の7月23日、秋学期の1月20日を授業予備日として設けている。

定期試験などは例年通り。

春学期		
月	日(曜日)	行事
3	25(火)~27(木)	履修登録(2~4年)
4	1(火)	入学式
	1(火)~4(金)	各種ガイダンス(1年)(1日のみ一部学部)
	3(木)	履修登録(1年)
	4(金)	履修時間割開示(全学年) CUBICS履修者名簿開示(全学年) 履修登録追加修正(1・2年)
	7(月)	授業開始
	7(月)~11(金)	履修登録修正(全学年)
	29(火)	昭和の日(平常授業)
5	17(土)	梅村学園創立記念日(休講)
7	19(土)	休講
	21(月)	海の日(平常授業)
	22(火)	平常授業終了
	23(水)	授業予備日
	24(木)~30(水)	定期試験
8	1(金)~7(木)	集中講義
	25(月)	成績開示(全学年)
	28(木)~9/3(水)	追試験・再試験

秋学期		
月	日(曜日)	行事
9	11(木)~16(火)	履修登録(全学年)
	18(木)	履修時間割開示(全学年) 履修登録追加修正(1・2年) CUBICS履修者名簿開示(全学年)
	19(金)	授業開始
	19(金)~25(木)	履修登録修正(全学年)
	23(火)	秋分の日(平常授業)
10	13(月)	体育の日(平常授業)
	30(木)	創立者祭(平常授業)
	31(金)~11/2(日)	大学祭(休講)
11	3(月)	文化の日(平常授業)
	22(土)	休講
	24(月)	勤労感謝の日振替休日(平常授業)
12	22(月)	年内平常授業終了
1	6(火)	平常授業再開
	19(月)	平常授業終了
	20(火)	授業予備日
	21(水)~27(火)	定期試験
	29(木)~2/4(水)	集中講義
2	12(木)	成績開示(4年・情報理工学部2年・工学部)
	17(火)~23(月)	追試験・再試験
3	6(金)	卒業・進級判定発表(4年・情報理工学部2年・工学部)
	10(火)	成績開示(全学年)
	19(木)	卒業式

愛知県庁若手職員の集い 本学ネットワークを有効利用



在學生や卒業生に本学のネットワークを有効利用してもらおうと12月7日、名古屋キャンパスで初の「愛知県庁若手職員の集い」が開かれた(写真)。資格センター、キャリアセンター、校友会が協力して企画。愛知県庁に内定した学生8人と、本庁に加え県立の病院や学校など様々な所属先で勤務するOB・OG 27人が参加した。今年は19人が入庁予定で、この5年間で50人以上が就職している。

内定者らが今から準備すべきことを先輩にたずねたり、卒業生同士で所属先の実務の違いを情報交換したりした。また、公務員対策講座の講師からも受講生のモチベーションを上げるため、どのような仕事ができるのか現

場の様子を伝えたいと質問する様子も見られた。

入庁4年目となる石原裕士さん(2010年法学部卒)は「大学にはお世話になったので後輩の役に立てばと参加した」、柴田悠貴さん(同)は「3年ごとに新しい部署に配属されるので、職場環境などについて聞くことのできる人脈が増えたい」と話していた。内定者の渡邊郁祐さん(経済学部4年)は

「今回できた先輩とのつながりを仕事で生かしていきたい。来年は自分が大学を訪れて、後輩たちに仕事内容や業務の量などを教えてあげたい」と話していた。資格センター職員は「毎年こうして招き中京大学ファンを増やしていきたい」と抱負を述べていた。

編集記

進学情報誌の大学イメージ調査や、企業の採用担当者の声によると、中京大生は「元気」というイメージが他大学に比べ際立っているという。キャンパス内を見回すと、確かに生き生きとした表情の学生が多い◆元気とは「生命力が旺盛、気分が上向き」(百科事典ウィキペディア)、「活動の源となる気力があること」(広辞苑)など精神の状態を表す言葉である◆ソチオリンピックの日本代表として世界に挑む中京大関係者は7人。インカレ等では表彰台(全国1~3位)に11クラブが上った。学習・研究面でも産学連携の商品開発、行政やNPOへの政策提案など積極的に取り組んでいる。注目度は高く、マスコミに頻繁に取り上げられ、広報担当として誇りに思う◆人文、社会、自然系を網羅した11学部には多様な学生が集まり、様々な活動や交流を通して切磋琢磨している。文武両道の教育方針「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」の実践と、多様で活発な学生たちの交わりが、元気な中京大生を育てているのだろう(は)



信頼と結束が組織力高める

ファッション界をリードするパリコレやミラノコレクション、歌劇場の代名詞であるパリのオペラ座で、世界一軽くて薄い織物『天女の羽衣』が2008年以降、使われている。空気うねり



や透明感を表現できると絶賛されている。

軽さは絹の約4分の1、極細の糸は髪の毛の約6分の1という衣料用織物を製作するのは石川県にある天池合繊(株)。社長の天池源受さんは「技術、付加価値を追求し、常に新製品を考え続けている」と開発やものづくりの面

白さを熱く語る。

本学在学時は詩舞道部に在籍し、同級生との結束や上下の信頼関係などが組織力となることを学んだ。先輩たちは、規律の大切さなどを徹底して教え込む厳しさと、時折のぞかせる温かい態度によるアメとムチが絶妙だったという。

2001年、2代目社長となる

あまいけ もとつぐ
天池 源受さん
天池合繊(株) 社長

も取引先の破綻で経営危機に直面する。翌年、起死回生の新商品『天女の羽衣』の開発に成功した。危機を乗り越えるため、社員一丸で臨んだ結束力が実を結んだ。

大学時代も社長となった今も、正面から自分と向き合ってきた天池さん。「困難に正面から立ち向かうこと、人との絆を大切にすること、怖がらずに前に進むこと。そして今、興味関心のあることに集中し、楽しみましょう」と後輩たちにエールを送っている。

●石川県七尾市出身。1979年商学部経営学科卒。『天女の羽衣』で2013年9月、「ものづくり日本大賞」経済産業大臣賞を受賞。テレビ東京「ガイアの夜明け」などでも紹介されている。

訃報



元教養部教授
三浦 克己さん
(みうら かつき)
11月11日逝去されました。
87歳。58~97年在職。生物学。

「脱デフレ」目指す動き



本学と中部経済同友会主催の公開講座「景気シンポジウム」が昨年12月3日、名古屋市内の名古屋マリオットアソシアホテルで1060人を集めて開かれた。山本雅史・中部経済産業局長、伊藤鎮樹・中部国際空港副社長、石田建昭・中部経済同友会代表幹事（東海東京証券会長）、宮川正裕・本学大学院ビジネス・イノベーション研究科長（総合政策学部教授）の4人をパネリストに迎え、奥野信宏・梅村学園理事兼本学総合政策学部教授が

コーディネーターを務めた。

リスク要因あるも堅調

奥野教授 まず、日本経済の現状と課題について、意見を聞かせてほしい。「脱デフレ」に希望が見えてきたのでは。
山本局長 概してうまくいっているとは評価できる。アベノミクス政策が機能して、大胆な金融緩和により、為替レートが1ドル100円前後の水準に移行し、輸出を中心に企業業績が回復してきた。消費税増税のマイナス

面を全く否定することはできないが、しっかりと政策対応をしていきたい。

伊藤副社長 中部を含め成田、羽田、関西の4空港の航空貨物の取扱量は2013年7月以降、4か月連続で前年比プラスが続いている。消費の観点から見ても、免税店の売り上げがよくなっている。2014年もこの状況は続くだろう。

石田会長 消費税増税やアメリカの金融政策の転換などリスク要因はあるが、①企業業績の回復②東京オリンピック、リニア中央新幹線などの建設投資循環③アベノミクスの政策効果④日銀のさらなる金融緩和——を背景に、2014年3月には株価1万8000円を達成すると見込んでいます。その後は2万円を目指す動きになるだろう。

宮川教授 アベノミクスの第三の矢、成長戦略については、もう少し時間がかかるだろうが、政府頼みではなく、民間もグローバル経営を強化していかなければならない。若者を中心に働き甲斐、やり甲斐が減っている。人材育成に投資をし、モチベーションを高めていくべきだ。



山本雅史氏



伊藤鎮樹氏



石田建昭氏



宮川正裕氏



奥野信宏氏

全国平均を上回る企業業績

奥野教授 次に名古屋圏の産業・経済の現状と見通しについてうかがいたい。

伊藤副社長 東日本大震災以降の航空旅客の回復状況は、関西、成田、羽田と比べて中部が最も早かった。円安を凌駕する形で、海外旅行に目が向き出している。この流れが拡大していくのではないかとみている。

石田会長 中部地域の企業業績は相当、期待できる。百貨店での高額商品の売り上げも全国平均を上回っている。株式の保有残も他地域より大きいし、消費に好影響を与えているのではないだろうか。

宮川教授 名古屋はものづくりの拠点。ただ、中小企業は高い技術力を持っているが、後継者がいない。私のゼミでは、学生が枕のメーカーと組んで携帯枕の商品開発をし、1個2000円で1万個が売れた。大学が企業と連携して、夢のある中京圏を作っていきたい。

山本局長 この地域には新しい製品づくりや技術開発に取り組

み、グローバル市場を目指す中小企業が沢山ある。中小企業の魅力を理解してもらえよう、インターンシップ制度を充実させるなど、国や大学も努力していかなければならない。

「観光」「農業」にも目を

奥野教授 最後に国際競争力のある名古屋圏への戦略を一言。

石田会長 自動車、航空宇宙以外にもセラミック、リニア、医療など、この地域ほど高度な産業が集積している地域はない。アジアものづくりサミットを開くなどして、世界に冠たる技術の集積をアピールするべきだ。

宮川教授 海外の観光客を呼び込むように工夫すること。2020年までに日本に年間2000万人が訪れるようになれば、5・3兆円の経済効果がある。

山本局長 ものづくり以外にも、埋もれている地域資源の中で海外に売り込んでいけるものがあると思う。特に「観光」「グリーン&クリーン産業」「農業」の3つは有望だと考えている。

伊藤副社長 能登半島を龍の頭、三重を尾に見立てて、自然や文化、歴史、産業、食のすべてを体験できる「昇龍道プロジェクト」を推進して、この地域の知名度を上げていくことが必要だ。

愛すべき母校、誇るべき母校へ

NEXT10

重点化プロジェクト、採択事業の計24件
2014年度スタート



本学は2014年4月に開学60周年を迎えるのを機に、今後10年間にわたる方向性や戦略を明確にした「中京大学長期計画 NEXT10」を策定し、昨年7月に公開した。

策定の段階で決定した「重点化プロジェクト」12件と、部門から募集した事業の中から「採択事業」として新たに12件を選び、計24件を「行動計画2014-2017」として4月から始動させる。

NEXT10は本学が走り続ける道標として、教員と事務職員が協働して取り組む全学的な事業。「愛すべき母校、誇るべき母校」となるよう、知を結集し、情報を共有しながら、行動力をもって改革を推進していく。

重点化プロジェクト

- 教育構想会議(仮称)設置プロジェクト
- 自校教育検討プロジェクト
- 研究振興委員会(仮称)設置プロジェクト
- 大学院委員会(仮称)設置プロジェクト
- 国際化推進プロジェクト
- キャリア教育・支援委員会(仮称)設置プロジェクト
- 学生支援システム構築プロジェクト
- 教学ガバナンス見直しプロジェクト
- 予算配分見直しプロジェクト
- 目的別寄付金制度導入プロジェクト
- 奨学金・授業料減免見直しプロジェクト
- 教育研究支援体制構築プロジェクト
- 中京大学博物館(仮称)設置プロジェクト
- 「中京法学」査読制度強化プロジェクト
- 法学部卒業生連携プロジェクト
- 組織的で継続性のある入学前・入学後リメディアル教育システムの構築
- 中京大学先端研究機構の創設と大学院改革—研究と教育の好循環をめざして—
- 教育推進センター設置プロジェクト
- 教職センター設置プロジェクト
- 7年一貫教育推進プロジェクト
- 中京大学学術リポジトリ整備事業
- 能動的学修支援事業
- 地域スポーツ振興のための学生社会活動促進プロジェクト
- 中京大学スポーツ応援プロジェクト

採択事業

2014年度 在学生の学費 (単位:円)

		1年生	2年生	3年生	4年生	
入学金		200,000				
授業料	現代社会・法・経済学部	745,000	755,000	765,000	775,000	
	文学部	765,000	775,000	785,000	795,000	
	国際英語学部(国際英語学科)	775,000	785,000	795,000	805,000	
	国際英語学部(英米文化学科)		775,000	785,000	795,000	
	国際教養学部	795,000	805,000	815,000	825,000	
	心理学部	800,000	810,000	820,000	830,000	
	総合政策学部	795,000	805,000	815,000	825,000	
	経営学部	745,000	755,000	765,000	775,000	
	情報理工学部			895,000	905,000	
	工学部	875,000	885,000			
	スポーツ科学部	830,000	840,000	850,000	860,000	
	教育充実費	現代社会・法・経済学部	230,000	230,000	230,000	230,000
		文学部	230,000	230,000	230,000	230,000
国際英語学部(国際英語学科)		280,000	280,000	280,000	280,000	
国際英語学部(英米文化学科)			240,000	240,000	240,000	
国際教養学部		240,000	240,000	240,000	240,000	
心理学部		275,000	275,000	275,000	275,000	
総合政策学部		230,000	230,000	230,000	230,000	
経営学部		230,000	230,000	230,000	230,000	
情報理工学部(情報システム工学科)				310,000	310,000	
情報理工学部(情報メディア工学科・機械情報工学科)				345,000	345,000	
工学部		345,000	345,000			
スポーツ科学部		300,000	300,000	300,000	300,000	
特別施設設備費		スポーツ科学部	50,000	50,000	50,000	50,000
	心理学部	30,000	10,000	10,000	10,000	
	情報理工学部			60,000	60,000	
	工学部	60,000	60,000			
実験実習費	スポーツ科学部	40,000	20,000	20,000	20,000	
	文学部	6,000				
オリエンテーション実習費	経営学部	15,000				
	現代社会・法・経済学部	1,175,000	985,000	995,000	1,005,000	
合計	文学部	1,201,000	1,005,000	1,015,000	1,025,000	
	国際英語学部(国際英語学科)	1,255,000	1,065,000	1,075,000	1,085,000	
	国際英語学部(英米文化学科)		1,015,000	1,025,000	1,035,000	
	国際教養学部	1,235,000	1,045,000	1,055,000	1,065,000	
	心理学部	1,305,000	1,095,000	1,105,000	1,115,000	
	総合政策学部	1,225,000	1,035,000	1,045,000	1,055,000	
	経営学部	1,190,000	985,000	995,000	1,005,000	
	情報理工学部(情報システム工学科)			1,265,000	1,275,000	
	情報理工学部(情報メディア工学科・機械情報工学科)			1,300,000	1,310,000	
	工学部	1,480,000	1,290,000			
	スポーツ科学部	1,420,000	1,210,000	1,220,000	1,230,000	

Works Published
著書紹介

地域の学校を貫く研究的実践の文化づくりと授業改善

—犬山市授業研究会2012年度の成果

協同教育実践資料20

杉江 修治(国際教養学部教授)他監修

本書は、2012年度の犬山市授業研究会に集う教師たちの、一年間の10の研究実践成果をまとめたものである。2001年から継続してきている犬山市の授業改善は市内の学校を貫く研究的実践文化を作ってきた。その確かな証拠としてこの成果がある。

一粒書房。2013年9月2日刊。328頁。税込2,625円。

ハラル食品マーケットの手引き

並河 良一(総合政策学部教授)著

イスラム圏の食品市場の規模は、経済成長を背景に、急速に拡大している。しかしイスラム市場に参入するためには、イスラム教の教義に基づく食品規格であるハラル制度をクリアする必要がある。本書は、ハラル制度について、その概要を解説するとともに、制度についての実務上の疑問に対し、Q&A形式で、わかりやすく説明している。

日本食糧新聞社。2013年11月14日刊。181頁。税込1,575円。

2014年度 入試

AO・推薦入試 志願者2,743人

本学の2014年度入学試験は昨年10月12日に行った国際英語学部、国際教養学部、総合政策学部のAO入試でスタートした。推薦入試は、11月16日に本学会場で特I(一部)・特III(一部)を、11月23日には一般・特I・特II・特IIIを本学会場に加え、全国15の会場で実施した。スポーツ科学部のAO入試および一般推薦入試「実技型」は11月30日

に実施した。

志願者数はAO入試と推薦入試の合計で2,743人(前年2,679人)。合格者数は同1,632人(前年1,635人)。

前期入試 志願者速報 (1月20日時点)

前期入試の出願が1月7日から始まり、1月17日に締め切られたM方式の志願者数が確定した。3,704人(前年3,642人)。

A方式、得意科目重視型CP方式、センター試験利用方式(3科目型)は1月24日、センター試験利用方式4科目型、

5科目型は2月3日が出願締め切り。

試験日は2月1日がM方式、2月5、6、8、9日がA方式、2月7日が得意科目重視型CP方式の計6日間(センター試験利用方式は個別試験を課さない)。全国18会場で実施する。合格発表は全方式とも2月18日。

後期日程入試 2月18日より受付

本学は3月7日に後期日程F方式の試験を全国13会場で実施する。願書受付は2月18-26日。募集定員は全学部合計で91人。

個別試験を課さない後期日程センター試験利用方式の願書受付は2月18日-3月11日。募集定員は90人。

いずれも前期試験と同様、インターネット出願の受験料割引「Net割」が適用される。合格発表は3月17日。

ネット出願に完全移行 受験生の利便性高め、負担減へ

本学は前期・後期日程入試で2014年度から紙の願書を廃止し、インターネット出願のみに完全移行した。

インターネット出願は、願書の製作費や受付処理に関わる人件費が削減できるため、受験料割引という形で受験生に還元している。また、記入漏れ防止、24時間受付など受験生の利便性が高い。

2014年度 AO・推薦入試 志願・合格者数(人) ※併設校・附属校推薦の志願者・合格者は除く

学部	学科	定員	志願者数		合格者数	
			2014年度	2013年度	2014年度	2013年度
文	日本文	23	45	48	27	34
	言語表現	23	54	71	34	40
	歴史文化	23	68	-	39	-
国際英語	国際英語 国際英語キャリア専攻	18	66	-	30	-
	国際英語 英語圏文化専攻	18	63	-	35	-
	国際英語 国際学専攻	18	33	-	19	-
	国際英語	-	-	78	-	45
	英米文化	-	-	71	-	48
国際教養	国際教養	36	68	73	46	45
心理	心理	50	149	145	63	88
現代社会	現代社会	100	268	219	176	184
法	法律	114	235	186	185	163
総合政策	総合政策	79	197	201	101	97
経済	経済	125	345	311	257	234
経営	経営	106	313	306	170	175
工	機械システム工	30	73	96	40	51
	電気電子工	30	42	67	27	45
	情報工	30	73	89	52	51
	メディア工	22	42	35	36	28
スポーツ科	スポーツ教育	40	124	137	64	60
	競技スポーツ科	190	285	314	193	198
	スポーツ健康科	30	200	232	38	49
合計		1,105	2,743	2,679	1,632	1,635

情報オリンピック

高校生に プログラミング講習

日本の将来に必要な不可欠な情報産業を支える人材を育成し、プログラミングに親しんでもらう場を大学で提供しようと、11月3日、名古屋キャンパスで本学工学部が情報オリンピックの予選参加を目指す高校生を対象に地域密着型の学習支援講習会「レギオ」を開催した。

情報オリンピックは1989年に始まった、問題の答えを出力するプログラムを作り精度を競う国際的なコンテスト。磯直行教授、青木公也教授、鬼頭信貴講師が講義を担当し、基礎的なトレーニングを行った。今年は9人の

参加があり、「プログラミングができるようになり、楽しくなった」「仕様の違う大学のパソコンで学べて良い体験となった」などの声が聞かれたという。

災害時にグラウンド提供

八事日赤と覚書

本学は10月1日、名古屋第二赤十字病院(八事日赤)と、緊急災害時における敷地借用に係る覚書を取り交わした。有効期間は1年で双方の申し出がなければ自動更新する。大規模地震や風水害、負傷者の多発した交通事故などの緊急災害時に、本学名古屋キャンパスグラウンドを多数の傷病者を受け入れるためのヘリポートとして提供する。

卒業アルバム

お申し込みはお早めに

卒業アルバムを企画するアルバム委員会は、2014年3月卒業予定者に「希望者は早めの申し込みを」と呼びかけている。卒業アルバムは注文数のみを制作するため。同委員会は、アルバムに掲載する個人写真についても、早めの撮影を促している。

申し込み、問い合わせは名古屋キャンパス3号館の永井抱陽写真館スタジオ、または同スタジオ本社(☎052-931-6781)へ。



SOCHI OLYMPIC GAMES



湯浅 直樹 選手
(アルペン所属:
体育学研究科
修士1年)

アルペン提供

スキー・アルペン回転

2006年トリノ五輪(7位)以来、2回目の出場。「選手育成に関する研究に取り組み、科学的・論理的思考を自身の競技にも活かしたい」と2013年4月、29歳で大学院体育学研究科に入学した。「日本人の技術力の高さ、魂の強さを示したい」と国産スキー板を使用して世界一を目指すことにこだわり続けている。



スキー・モーグル

伊藤 みき 選手
(北野建設所属:
2010年体育学部卒)

2006年トリノ五輪(20位)、本学在学中の2010年バンクーバー五輪(12位)に続き、連続3回目の出場。2012-2013年シーズンの世界ランクは6位で、2013年の全日本選手権はモーグル、デュアルモーグルで優勝している。

全国大会 入賞

(2013.11~)

フェンシング部 女子エペ団体

全日本選手権で初の日本一

フェンシング部女子が全日本選手権大会(11/23・24、長崎)団体戦の女子エペで初優勝し、日本一を達成した。メンバーは森下結衣選手(現代社会学部4年)、越野沙織選手(同2年)、難波柚選手(スポーツ科学部1年)、濱野万葉選手(同)の4人。決勝の法政大戦では終始リードを保ち、大学や社会人など24チームの頂点に立った。



ハンドボール部

インカレ 男子準優勝、女子3位

ハンドボール部が、全日本学生選手権大会(11/23-27、山梨)に出場し、男子が初の準優勝、女子は1998年以来の3位に輝いた。男子の決勝戦は前半でリードしたものの、後半



に逆転され、早稲田大に26対27で惜敗。中野創介主将(体育学部4年)は、「チーム一丸となって決勝戦までやることができました。後輩には中京らしさを受け継ぎ、ぜひ優勝を」と夢を託していた。

スケート部 男子フィギュア

インカレ団体・日野選手が2位

日本学生氷上競技大会(1/7・8、北海道)フィギュアスケート部門に本学スケート部から男子女子各3人が出場。日野龍樹選手(スポーツ科学部1年)がAクラス総合2位に、橋爪峻也選手(国際英語学部2年)、江口涼一選手(現代社会学部3年)との団体戦

でAクラス2位となった。女子団体はAクラス6位だった。

フィギュアスケート

小塚選手が全日本3位
四大陸で無良選手優勝

全日本選手権(12/21-23、埼玉)男子シングルで、小塚崇彦選手(トヨタ自動車所属:体育学研究科修士2年)が3位、無良崇人選手(岡山国際スケートリンク所属:2013年体育学部卒)6位、女子シングルでは安藤美姫選手(新横浜プリンスクラブ所属:2011年体育学部卒)が7位と本学関係3人が入賞した。四大陸選手権(1/20-25、台北)では無良選手が初優勝、小塚選手も2位と健闘した。

ショートトラック 世界選手

日本代表選手選考で7位

ソチ五輪ショートトラック日本代表選手選考競技会(12/10-15、大阪)で、世界明斗選手(体育学部4年)の最高成績は500mと1000mの7位だった。

アルティメット 女子

新人インカレで優勝

女子アルティメットチームが全日本大学新人選手権大会(12/21-23、静岡)で4年ぶりに決勝戦へコマを進め、優勝を飾った。大会MVPに新本桂子選手(スポーツ科学部2年)が選ばれた。

本学関係7選手が世界に挑む

ロシアで2月7日に開幕するソチ・オリンピックに、本学の学生5人と職員1人、OG1人の合計7人が日本代表選手として世界に挑む。

ベルギー・アントワープ大会(1920年)以来、本学関係者の五輪出場者は夏季・冬季合わせて延べ89人に上るが、冬季のみで7人の出場はこれまでで最多となる。五輪2度目の挑戦となる浅田真央選手、湯浅直樹選手をはじめ、全員が最高のパフォーマンスを目指してベストを尽くす。

浅田選手は2大会連続の出場で、前回のバンクーバー五輪では銀メダルに輝いている。今シーズンのグランプリ(GP)シリーズは、アメリカ大会、NHK杯、ファイナルの全てで優勝。難度の高いトリプルアクセルと華麗なステップで高得点を狙う。

村上選手は4月に中京大中京高校から本学に入学。今シーズンは、全日本選手権でショート、フリーともに自己最高得点をマークして2位に入るなど成長著しい。四大陸選手権でも自己ベストを更新し、初優勝した。

木原選手は昨年2月、シングルからペアに転向。高橋成美選手と組み、徐々に頭角を現してきた。全日本選手権で初優勝し、ソチ五輪・団体の切符を手にした。その後、個人種目としての出場権も得た。

フィギュアスケート シングル



浅田 真央 選手
(体育学部4年)

村上 佳菜子 選手
(スポーツ科学部1年)

ペア



木原 龍一 選手
(木下クラブ所属:
スポーツ科学部3年)



中日新聞提供

カーリング

高校時代にカーリングで成果を挙げてきたが、本学入学後、陸上競技部に所属し七種競技に専念してきた。昨年からは、週末は北海道でカーリングの練習や試合をこなし、二重の生活を克服して代表の座を勝ち取った。



小野寺 佳歩 選手
(北海道銀行所属:
体育学部4年)

スケート・ショートトラック 1000m、3000m リレー

本学経営学部在学している時から、W杯やアジア大会、ユニバーシアードなど国際大会で入賞する成果を挙げてきた。2011年に卒業後、本学豊田学生支援室で職員として勤務しながら競技を続けている。



清水 小百合 選手
(本学職員:
2011年経営学部卒)

スケート	●フィギュア(女子)		
	ショートプログラム	2月19日	24:00~
	フリー	2月20日	24:00~
	●フィギュア(ペア)		
	(団体)ショートプログラム	2月 7日	00:30~
	(団体)フリー	2月 8日	23:30~
	ショートプログラム	2月11日	24:00~
	フリー	2月13日	00:45~
	●ショートトラック(女子)		
	3000mリレー予選	2月10日	18:45~
3000mリレー決勝	2月18日	18:30~	
1000m予選	2月18日	18:30~	
1000m決勝	2月22日	01:30~	

GAME SCHEDULE

競技日程(日本時間)

スキー	●アルペン(男子)		
	回転	2月22日	21:45~
	回転(決勝)	2月23日	01:15~
	●フリースタイル・モーグル(女子)		
	予選	2月 6日	23:00~
	予選	2月 8日	23:00~
決勝	2月 9日	03:00~	

カーリング(女子)	予選リーグ		
	韓国戦	2月11日	14:00~
	デンマーク戦	2月11日	24:00~
	ロシア戦	2月12日	19:00~
	アメリカ戦	2月13日	24:00~
	イギリス戦	2月14日	19:00~
	カナダ戦	2月15日	14:00~
	スイス戦	2月16日	19:00~
	中国戦	2月17日	14:00~
	スウェーデン戦	2月17日	24:00~
決勝トーナメント			
準決勝	2月19日	19:00~	
決勝	2月20日	22:30~	



総合政策学部の宮内美穂教授のゼミに所属する6人が企業(株)ユードー、(株)ソニー・ミュージックエンターテインメント)とスマートフォン向けのソーシャル目覚ましアプリ「OMEZA」を共同開発し、10月1日にリリースされた。

最大の特徴は、従来の目覚ましアプリにはない「誰かに起こしてもらおう」というソ

ーシャル要素を含んでいる点だ。起こしたユーザーはポイントを得ることができ、そのポイントを貯めることでAmazonギフト券と交換ができる。植原成美さん(4年)は「企業の経営戦略や消費者のニーズなどを学んだ。また、企業からの厳しい意見や競合商品との差別化など、困難な場面に何度もぶつかった」と商品開発に至るまでの過程を振り返った。

産学連携

目覚ましアプリ「OMEZA」開発特徴は「誰かに起こしてもらおう」

受賞(コンテスト、学会等)

- 政策立案コンテスト「未来松阪市」で最優秀賞
- キャンパスベンチャーグランプリ中部で中部経済連合会会長賞
- ロボットサービスコンテストで審査員特別賞と審査員奨励賞
- 大学生のためのマーケティング研究講座で総合優勝
- ビジネスプラン・コンペティションKUBICで最優秀賞と企業賞
- アルゴリズムコンテストで優秀賞と審査員特別賞
- 社会人基礎力育成グランプリ中部予選大会で優秀賞
- 大学横断型商品企画コンテスト(Sカレ)で企業賞
- 精密工学会サマーセミナーで優秀発表賞
- 電気学会産業応用部門で優秀論文発表賞
- 電子情報通信学会で優秀ポスター賞、学生研究奨励賞

産学連携

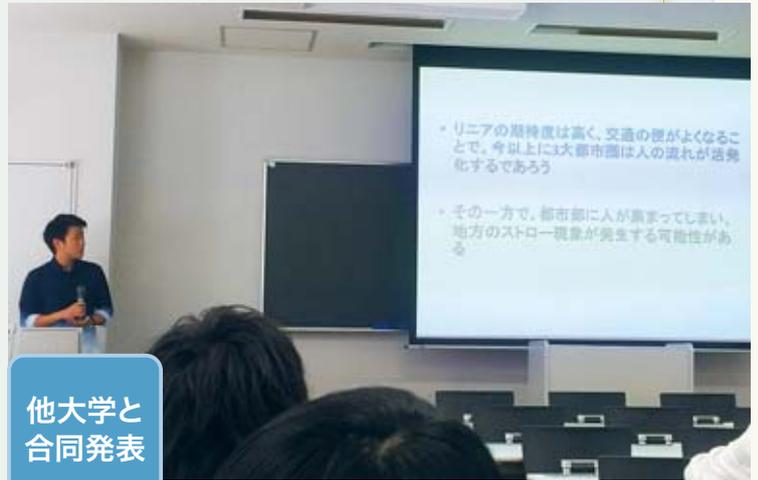
- スマホ目覚ましアプリ「OMEZA」を(株)ユードー、(株)ソニー・ミュージックエンターテインメントと共同開発
- 洋菓子「スイーツセレクト」を井村屋(株)に企画・提案
- (株)菓宗庵と焼き菓子「くるみマフィン」「くるみプリン」を商品開発・販売。原材料と売上金の一部で東北復興を支援
- 山崎製パン(株)に6大学が「ランチパック」を企画・提案
- ブラザー販売(株)のプリンターリーフレットを企画・提案
- 本多プラス(株)に化粧品容器の提案

地域貢献

- 八事商店街向けに八事マップを企画・制作
- 名古屋市市民活動推進センター「ぼらチャリ」で寄附文化の発展に協力
- 円頓寺商店街で地域活性化のための謎解きアトラクションゲーム開催
- 豊田市「保見おいでんまつり」の運営に協力

外部の研究発表

- 豊田市社会福祉協議会に提案
- 愛知県選管へ大学生による政治選挙に関する研究報告
- アップルストアでTOEICスコア向上をテーマにプレゼン
- 中部地区8大学42グループが中部経済学インターゼミで研究発表
- 11大学が名古屋国際関係合同ゼミナール
- 愛知県選管に「タダコピで啓発」「模擬投票所の設置」を提案



他大学と合同発表

8大学で中部経済学インターゼミ 本学から6ゼミ10グループが発表

中部圏にある経済関連学部の学生の交流を目的に、本学のほか、名古屋、名古屋市立、富山、愛知教育、南山、愛知、名古屋学院の8大学42グループが参加して、第6回中部経済学インターゼミが11月30日に行われた。

本学経済学部からは山田光男・近藤健児教授、内田俊博・増田淳矢・風神佐知子・英邦広准教授の6ゼミ10グループが参加。「地域経済」、「教育と環境」、「メディアとライフスタイル」などのテーマごとに8つの発表会場に分かれ、研究成果を披露した。近藤ゼミの「リニア新幹線の東海地域の影響について」をテーマにしたグループは、リニア新幹線の開通(2027年)にともなって東海地方の地域経済にこの巨大プロジェクトがどのような影響を与えるのかを調査・分析した。

学生の 学習・研究成果

社会に向けて 積極的に発信

学部の授業等で身に付けた専門知識を実践の場で生かし、一層飛躍しようと、学習・研究の場を外部にも求める学生が、ここ数年大幅に増えている。

コンテストや学会で研究成果を発表、企業と連携して商品開発、行政に政策を提案、地域社会への貢献事業など、積極的に取り組み、成果を挙げている。

「豊かで、よりよい社会づくり」に向け、学生の立場で提案できることは何か、「行動力、コミュニケーション能力、チームワーク」など社会人基礎力を学生のうちに身に付けるために何をすべきかなど、学生たちの視線は社会に向いている。

重点政策①MADE IN まつさ課の創設



政策提案

「未来松阪市」コンテスト最優秀賞 地域ブランド「MADE IN まつさか」

三重県松阪市主催の政策立案コンテスト「未来松阪市」(12月15日)で、総合政策学部桑原プロジェクト研究(指導教員:桑原英明教授)の4年生チームが、30年後のビジョン「MADE IN まつさか!!〜世界を翔る松阪のモノとヒト〜」を発表し、最優秀賞を受賞した。同コンテストは中学生から社会人まで40歳未満の10チームが発表。入場した約70人の市民の投票により選出された。

提案した政策は、一定の基準を満たした松阪市のモノとヒトを地域ブランドに認定し、ロゴマークを付けて世界中に発信するというもの。併せて、若者を対象に「名産品開発コンテスト」を開催し、キャリア教育の実践の場も提供する。このように、松阪の産業振興と人材育成を一体で行う「MADE IN まつさ課」を市役所内に新たに創設し、松阪市全体を元気にしていく政策である。

山中光茂市長は「現状分析が的確で、未来像がはっきりわかる提案だった。来年度からの導入を検討したい」とコメントした。森温美さん(4年)は「若者でも市の行政に参画することができる。今後は積極的に自治体や社会に関わっていきたい」と語った。



受賞後、山中市長(中央)を囲み記念撮影

学会 コンテスト

電子情報通信学会PRMU研究会 アルゴリズムコンテスト優秀賞



工学部と情報理工学部の有志学生2チームが、電子情報通信学会PRMU研究会主催「アルゴリズムコンテスト」(12月12日)で大学・企業からの応募51作品の中から、優秀賞と審査員特別賞を受賞した。

ロボット開発に関わる基本的な能力向上を目的に、学生たちは2010年度から毎年応募している。今年は3年生を中心に5チーム58人が応募し、画像処理の基本問題である物体検出のアルゴリズム設計とプログラミング課題に挑戦した。

有賀治樹さん(情報理工学部4年)は後輩にも「知能ロボットや知的センシングの楽しさを知って」と話している。

2. 共同で格差問題を検討 活発な議論重ね発言力強化



活発に議論する京ゼミ生と愛大生

京准教授のゼミでは、3年生21人が今年初めて、愛知大学地域政策学部の今里佳奈子教授、野田遊准教授の2つのゼミ(3年生各15人)と合同で演習を行った。「他大学の学生同士がお互いの優れた部分を見つけ、より意欲を持って学習に取り組んでほしい」という狙いだ。

合同ゼミが開かれた6月22日。中京大生と愛大生の混合6グループに分かれ、分科会で活発に議論を交わした。

テーマは「格差社会」。共働き夫婦における給与格差や学歴格差、ゆとり教育世代とそれ以外の世代間格差などについて、各グループで改善策を2時間で練り上げ、プレゼンテーションに挑んだ。「役割分担や進行がしっかりしていないと、2時間では改善策をまとめるのは難しい。初対面の人と調整しながら決められた時間で仕事をする訓練になったのではないかと京准教授は話す。

プレゼンで優勝した高木雄貴さん(京ゼミ)のグループは、国民の税負担が低い代わりに、生活保護や医療、介護サービスが手薄な米国型福祉社会に近い日本の福祉の問題点を指摘。高負担であっても質の高いサービスを提供しているヨーロッパ型社会に近いモデルを提案した。高木さんは「一緒にいるグループにいた愛大生は単純にヨーロッパ型ではなく、日本人の文化や気質に合わせた政策を考えていて、とても刺激を受けた。合同演習で学んだことを生かして、今後は政策面でも独自のアイデアを出せるように知識を付けていきたい」と意欲を語った。

ロボット研究

3. ロボット製作通じて自主的な 研究やコミュニケーション力促す

コンピュータのソフトウェアなど機械工学の基礎知識を応用してロボットの設計・製作をしている清水准教授のゼミでは、毎年2年生が遠隔操作型や自律型ロボットでサッカーやレスキュー競技を行うロボカップに参加している。昨年5月に玉川大学で開かれた2013年度の大会には6人のメンバーが出場した。

大会には全国の大学や専門学校から71チームが参加。レスキューロボットリーグでは競技のほかにも、出展ロボットについて学生たちが説明や質疑に答えるポスターセッションも行われた。清水ゼミの学生たちは、自分たちと同じセンサーを使いながらより高性能なロボットを制作した他チームの学生に、使用しているプログラムや技術の活用方法を質問。自分たちのロボットを改良する際の参考や、研究を深める足掛かりにした。

ロボカップだけでなく、名古屋モーターショーなどの展示会にも、他大学に混じって出展している。

清水ゼミの学生たちは、キャタピラの向きが変わるロボットについて、足場の悪いがれきの上でキャタピラが外れないように方向転換する活用方法を説明。50人を超える他大学の学生や一般参加者の質問に答えるうちに、新たな課題を発見するほか、ものづくりの現場におけるコミュニケーション力を自然に身に付けている。

清水准教授は「他大学のゼミ生たちと切磋琢磨しながら、自分たちの得意分野を伸ばして、不足している技術や知識を補えば、より素晴らしいロボットを作り出すことができる」と期待している。



モーターショーで名城大生に説明する清水ゼミ生(左)

ゼミに + フォーカス focus on seminars

【第1回テーマ】「交流」

他大学の学生と 切磋琢磨しながら成長

少人数教育で学生一人ひとりの能力や個性を伸ばす「ゼミナール」(通称ゼミ)は、大学教育にとって重要な柱だ。専門知識を深めるだけでなく、ゼミ生同士の相互啓発、社会人基礎力の修得など、ゼミ活動を通して価値観や人生観が大きく変化する学生も少なくない。11学部を擁する本学は、産学・地域連携やボランティア、実証・実験など、幅広いテーマのゼミが300以上開講されている。新企画「ゼミにフォーカス」では、魅力的なゼミの数々を紹介する。第1回は「交流」をキーワードに、他大学の学生と討論したり、研究成果を競い合ったりして、学生たちが成長していく姿に焦点を当てる。

文化人類学の視点で市民活動を調査・研究

1. 人とのつながりを重視した フィールドワーク(現地調査)

現代社会学部

齊藤 尚文ゼミ (2~4年)

齊藤教授のゼミ生ら20人は昨年8月、小学生を対象に2泊3日の合宿「サマースクール」を豊田市内のキャンプ場で実施。人と自然との触れ合いを通して、自然の素晴らしさと協働性を学んでもらう環境学習に取り組んだ。

参加したのは日進市の小学生約30人。カエルをヘビが食べ、そのヘビをタカが襲うなど、弱肉強食の食物連鎖の様子を、子どもたち自身がヘビやカエルなどの役を演じて学ぶ「生物多様性鬼ごっこ」、野山の樹木や花、生物を観察して歩く「ウォークラリー」など、楽しみながら学習できる工夫を随所に取り入れた。企画・運営に携わった出雲路善彰さん(4年)は「時間の管理、シミュレーションの重要性など多くのことを学ぶことができた」と語る一方で、「小学生は私たちの行動をよく見ている。間違った言葉遣いや危険な行動を簡単に真似る」と、ちょっとした気の緩みを反省した。

文化人類学を専門とする齊藤ゼミでは、調査対



沼に生息する生物を観察する小学生と齊藤ゼミ生ら

象の人たちと長い時間をかけて、つながりを持ち続けるフィールドワークに重点を置いている。現地調査の活動報告書提出を義務づけており、サマースクールは学生独自の活動として実施しているが、ゼミ教育の延長線上にある。



自然を学びながらウォークラリー

齊藤ゼミ生が愛知淑徳大学など他大学の学生に呼びかけ、子どもたちの環境学習を実施する組織「NANAC」が2010年に発足した。トヨタ自動車のトヨタ環境活動助成事業や日進市の協力を受け、サマースクールのほか、グリーンマップ(世界共通の絵記号を使った自然を描いた地図)の作成などにも取り組んでいる。

齊藤ゼミに所属する湯浅真梨子さん(4年)は「大学、学部、ゼミなどのコミュニティーにより人間が形成されていく。価値観の異なる他大学のメンバーが加わることで、違う視点、一歩踏み込んだ取り組みが可能になる」と成果を語る。



台湾総督府文書目録の編纂作業を行う研究員や日台の共同研究員たち
(台湾の国史館台湾文献館で)

完了する予定だ。さらに、台湾史研究所のある台湾師範大学や、中国の遼寧大学日本研究所などと協定を結び、シンポジウムなどに研究者を派遣し合うなど、交流を深めている。

卒論のテーマに台湾史を選ぶ学生や、「亡くなった祖父が住んでいた当時の台湾について知りたい」と同センターを訪れる市民もいる。日本国内で有数の台湾史の研究拠点として、同センターの果たす役割は、ますます重要となっていきそうだ。

国や地域をテーマに 多角的な視点で分析

4つの研究部会

社会科学研究所は、台湾史研究センターを擁する台湾史研究部会のほか、英連邦研究部会、ロシア研究部会、東アジア研究部会の4つの研究部会を設置している。

【英連邦研究部会】

ロースクールの立場から見た英米法と大陸法の比較や、国際教養の視点からオーストラリアのロシア系宗教移民について研究を行うなど、多文化主義国家を標榜するオーストラリア、カナダ、イギリスの社会・文化・法に関する比較研究を行う。

【ロシア研究部会】

1991年末のソ連の崩壊がロシアに及ぼした影響に関して、社会制度の変容や貧富・地域の格差、文化状況の変化など、現状を追究する。2012年度からは体制変動20年を迎えてなお根強く息づく、ロシアらしい伝統や文学について研究している。

【東アジア研究部会】

韓国、台湾、中国、フィリピン、ベトナム、シンガポール、タイ等「東アジア」領域世界の社会や文化、政治経済の把握・解明を目指す。2013年度は台湾総督府文書との比較研究のため、韓国で朝鮮総督府文書を調査・収集している。



多様な学問領域から分析

オリンピックの社会への 影響力を掘り下げる

今年2月に開かれるソチ五輪への出場選手7人を含んで、夏季、冬季を合わせて延べ96人の五輪選手を輩出している本学では、スポーツ指導者の育成やスポーツ科学の研究でも日本をリードしている。オリンピックを新しい視点から捉えるため、2012年12月からスタートした「オリンピックから考える学際研究プロジェクト」もその一つ。社会科学研究所を中心に、スポーツ科学、歴史社会学、人類学、法学、経済学といった本学の様々な分野の研究者が、それぞれの立場から、オリンピックの意義や社会への影響力について掘り下げていく。

ユニフォームなどスポーツの衣環境の変化を、スポーツ選手や団体からの聞き取りやデータ収集に基づいて調査したり、オリンピック開催国の法整備や社会統合などへの影響や経済効果について研究を行ったりする。



DVDを鑑賞しながら意見交換するメンバー

研究代表者の大友昌子教授は「2020年の東京五輪を視野にリオデジャネイロ五輪開催の2016年には研究成果を発表したい。総合大学としての中京大学の特性を活かした学際的な学術研究をめざしたい」と抱負を述べている。

五輪テーマに第3回研究交流会

オリンピックをテーマにした第3回研究交流会が1月21日、名古屋キャンパスのアネックスホールで行われ、体育研究所の田内健二・スポーツ科学部准教授がやり投げ五輪選手育成の実践内容を報告するなど、3研究所の3人が研究発表した。交流会は、本学の研究所が専門分野を超えて成果を共有しようと昨年スタートした。

研究所 DATA

開設 1980年4月

研究員数 67人 ※内訳：研究員32人、特任研究員25人、
客員研究員5人、名誉所長2人、名誉所員3人

定期刊行物 紀要「社会科学研究所」、叢書

学術講演会 「日本の境界地域における多文化共生推進に向けてー福岡・稚内における経験と課題ー」「東南アジアをめぐる国際関係と日本の戦略」(2013年度)

7つの研究力

社会科学研究所

学問の成果を社会へ還元することを目的に、本学は社会科学研究所をはじめ、文化科学、企業、体育、経済、人工知能、法曹養成の7研究所を設置している。本学の教員に加えて他大学や企業からも研究員を受け入れ、人文科学系、社会科学系、自然科学系など多岐にわたる分野で、研究者たちが共同研究や情報交換をしたり公開講演会を開いたりしている。今号から各研究所の取り組みを紹介する新企画「7つの研究力」をスタート。第1回は台湾史研究やオリンピックに関する共同研究など、多彩な研究を進める社会科学研究所を取り上げる。



国際社会における日本の課題を伝える

国境や領土問題に関心を 尖閣・普天間テーマにシンポ

国際社会における日本の現状や課題をより深く理解してもらうため、社会科学研究所は毎年シンポジウムを開催している。11月4日に名古屋キャンパスの清明ホールで開かれた2013年度の特別シンポジウム「沖縄をボーダーから考えるー普天間・尖閣・オスプレイ」には、本学の学生を含む約250人が参加した。岩下明裕・北海道大学教授が、映像を交えながら北方領土や沖縄などの国境と領土について常に関心を持っておく必要性を説いた。また「沖縄の米軍問題の解決に何が必要か」などの質問に対し、屋良朝博・元沖縄タイムス論説委員は日本人の意識の変化が重要であることや、長期で戦略を考えるべきとの考えを示した。

台湾総督府文書を分析

国内外で研究の拠点に 100万件をデータベース化

社会科学研究所の傘下にある台湾史研究センターは、日本が台湾に総督府を置き、支配していた1895年から1945年まで50年間の公文書の収集と分析を続けている。これらの公文書は、第二次世界大戦で日本が敗れ、台湾が中華民国に接収されて以降、1987年に戒厳令が解除されるまで国家秘密文書として非公開となっていた。本研究所は、1982年以降、檜山幸夫センター長（社会科学研究所長・法学部教授）らが台湾を頻繁に訪れ、政府要人や内外の研究者らと交流を進める中で、台湾総督府文書の収集とそれに基づく研究並びに台湾総督府文書目録（改刊分29巻）の編纂を行ってきた。

檜山センター長によると、日本が統治する前の台湾は衛生状態が悪く、ペストやコレラ、マラリアなどの風土病が蔓延。山地が多いことから、交通の便が悪く、港湾整備も遅れていた。このため、台湾総督府はインフラの整備を積極的に進め、現在ではアジアでも有数の港と知られる高雄港の築港や台湾縦貫鉄道の建設、近代的な稲作を可能にした用水整備といった政策を図ってきた。

また、産業効率の向上や工業化による雇用創出に加え、医療衛生の教育や下水道の完備が行われ、日本の統治時代に台湾の人口は3倍になったという。同センターが調査した公文書には、そうした台湾総督府の政策の原案立案から決定、施行までの全過程が克明に記されている。

檜山センター長は「台湾に関わった日本人の残した文書や手紙、写真などを台湾史研究センターが受け皿となって保存し、大学での授業や一般市民への提供などで活用していきたい」と抱負を語る。現在、同センターは、科学研究費の補助金を得て台湾総督府文書目録の検索データベース化を進め、2014年度には明治時代にあたる約100万件の登録が



檜山教授(中央奥)らが所属する台湾史研究センター

しなやかに挑み続ける新生・中京大学

CHUKYO UNIVERSITY

2014
January

2014 SOCHI OLYMPIC



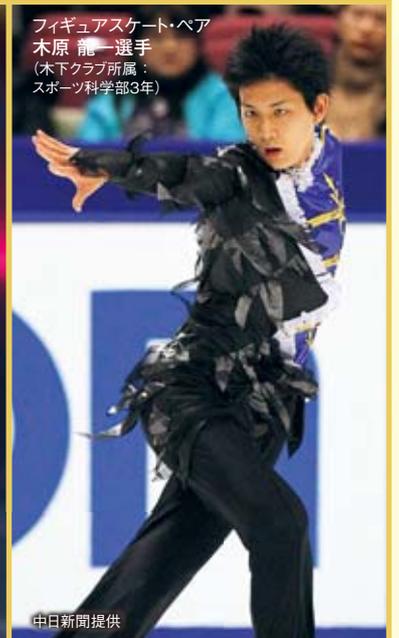
スキー・モーグル
伊藤 みぎ選手
(北野建設所属：2010年体育学部卒)



フィギュアスケート
浅田 真央選手
(体育学部4年)
中日新聞提供



フィギュアスケート
村上 佳菜子選手
(スポーツ科学部1年)
中日新聞提供



フィギュアスケート・ペア
木原 龍一選手
(木下クラブ所属：
スポーツ科学部3年)
中日新聞提供



スキー・アルペン回転
湯浅 直樹選手
(アルペン所属：
体育学研究科修士1年)
アルペン提供



スケート・ショートトラック
清水 小百合選手
(本学職員：2011年経営学部卒)



カーリング
小野寺 佳歩選手
(北海道銀行所属：体育学部4年)

ソチオリンピック



本学関係7選手が日本代表



7つの研究力 【社会科学研究所】

台湾史研究、オリンピック研究調査など

新企画

ゼミにフォーカス 第1回テーマ【交流】

他大学と交流し切磋琢磨するゼミ紹介

台湾史研究に取り組む社会科学研究所の研究者ら▶

